

上野 憲示（うえの けんじ）

〔美術評論〕

〔芸術文化振興〕

昭和 23（1948）年 3 月 17 日生 （満 72 歳）

宇都宮市在住

氏は、東京大学で美術史を学ばれ、昭和 47 年に卒業された後、栃木県立美術館に学芸員として勤められ、開館記念特別企画「栃木県の美術」展をはじめ、「青木繁・福田タネのロマン展」「渡辺崋山展」など多くの企画展を担当されました。

その後、学校法人宇都宮学園の運営する学校の長を務める傍ら、日本美術の研究活動を続け、数々の学術論文や著書を発表され、特に鳥獣人物戯画や渡辺崋山の研究など、美術評論において大きな功績を残しておられます。

また、氏は、栃木県立博物館資料評価委員、栃木県、宇都宮市及び足利市において文化財保護審議会委員を務められたほか、氏の研究や普及活動が、足利長林寺「狩野正信 観瀑図」及び伊藤若冲「菜蟲譜」の国重要文化財への指定や、さくら市ミュージアム－荒井寛方記念館、小杉放菴記念日光美術館の創設や作品収集に繋がるなど、地域における芸術文化の振興に貢献されております。

さらに、平成 11 年には、県内初の芸術大学として文星芸術大学を創立され、学長を長く務められ多くの若き芸術家を輩出されるなど、美術教育にも大きく貢献されています。